



NPO法人 大磯ガイド協会

# 照ヶ崎

第54号  
令和5年8月1日

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯 1933-1

TEL 0463-75-8590

ホームページ

<https://www.oisoguide.com>



## 植物学者「牧野富太郎」と大磯

鈴木 泰子

「日本の植物学の父」と呼ばれる牧野富太郎博士(1862～1957)は、研究の為に全国の山谷を歩き回って植物採集をしたことで知られており、神奈川県内にも多く足跡を残している。日記には県内に月一度程度訪れている記述がある。特に箱根は地勢や固有の植物の存在などから重きを置いていたようであるが、他に鎌倉、大磯、平塚、横浜などの記録がある。「秋季特別展 牧野富太郎と西相模の自然展」(平成7年大磯町郷土資料館開催)の図録によれば、大磯では高麗山を中心に収集が行われた。「大磯行 徳川邸ヨリ高麗山行・・・採集植物・・・ヤマモモ・ホルトノキ・コヒガンザクラ・クスノキ・コクサギ・ミツバアケビ・ミツマタなど」(大正5年4月16日の日記)とある。このホルトノキは高麗山にある旧堀文子邸庭の大木の事であろう。当時の樹勢が気になる。



ホルトノキ(旧堀文子邸)

牧野博士の生家は屋号を「岸屋」と称し、代々高知県佐川の地で酒造りを営んでいた。明治中頃、博士はこの酒蔵を人手に譲り上京し、植物研究に生涯を捧げた。その後、この酒蔵は「司牡丹酒造」に譲られた。この酒の愛飲者の一人に吉田茂がいる。吉田が初めて高知の選挙区にわたった際、「土佐の酒はまずいから、よい酒を東京から持っていこう」と語ると、選挙区の有志から「土佐には自慢の酒がある」と叱られた。土佐に着いて飲まれた「司牡丹」という酒は上等で、以来その酒を愛用した。旧吉田茂邸の食堂(別名ローズルーム)の一角には、埋め込み式の飾り棚がある。吉田と談笑している男性の大きな写真が飾られている。写真の主は司牡丹酒造取締役会長(当時)竹村源十郎である。昭和35年の遊説時に高知入りし、同社で竹村と対談した際に撮影した記念写真であろう。

余談であるが、後年、実家からの庇護から離れた博士は、貧苦と闘いながらも独学で植物の研究に邁進したが借金をしながらの生活だったようである。ある時は遂に、莫大な借金二千元(現在価値で四千万円)を土佐つながりで三菱の名家岩崎家の助けで清算した。他にも、救済に名乗りをあげた中には久原房之介の名もある。大磯に別荘を構えた財閥たちの知られざる姿を初めて知った。

余談であるが、後年、実家からの庇護から離れた博士は、貧苦と闘いながらも独学で植物の研究に邁進したが借金をしながらの生活だったようである。ある時は遂に、莫大な借金二千元(現在価値で四千万円)を土佐つながりで三菱の名家岩崎家の助けで清算した。他にも、救済に名乗りをあげた中には久原房之介の名もある。大磯に別荘を構えた財閥たちの知られざる姿を初めて知った。

牧野博士は高知県内での植物調査を続ける一方で、政治活動にも参画した時期がある。後に自由党を脱党し、「・・・学問に専心する・・・」と自伝に記されている。吉田の実父竹内綱(1840～1922)は板垣退助らとともに土佐の自由民権運動の主要人物である。両者は土佐の地で、夢を語り合ったことがあるのだろうか。

令和4年1月に大磯町郷土資料館で「堀文子と大磯展」が開催された。展示室の一角には高麗山にあるアトリエが再現されたが、そこで見つけた堀文子の蔵書の緑色のハードカバー『牧野日本植物図鑑』が印象的であった。

## 活動報告 令和5年5月～7月

### ——企画ガイド「相模国府祭を訪ねる」——

5月5日(金・祝日) お客様54名 ガイド13名

風薫る5月5日、国府祭(こうのまち)が国府地区の逢親場(馬場公園)及び神揃山を祭場とし、4年ぶりに盛大に開催されました。平安時代から今日まで千年余り続いており、相模国の有力な神社が、総社六所神社に御分霊を納め、国司が国家安泰・五穀豊穰など祈念する相模国最大の祭典です。午前9時すぎに六所神社を出発し、国府祭ゆかりの神社仏閣を参拝、午後に逢親場で執り行われる「鷺の舞」や「神対面」神事のお話をしながら、5名のお客様も久しぶりのお祭りの雰囲気を楽しみました。途中、前鳥神社の「麦振舞神事」で神社関係者のお誘いもあり、神様からの麦飯を賜りました。神様から疫病に負けない、力を賜ったかのような高揚感を感じられたのではと思います。終点の神揃山には、相模国の一番大きな神社はどの神社かとの論争を儀式化したといわれる「座問答」にご案内しました。来年も相模国の神々との出会い、良きお客様との出会いがあることを願いたいと思います。(原田 忠志)



前鳥神社 麦振舞神事

### ——オープンガーデン「東小磯 山手をいろどるお庭めぐり」——

5月19日(金) お客様42名 ガイド12名 5月20日(土) お客様26名 ガイド10名

今年は初の試みとして、素敵なお庭に加えて大磯の町並みと、海を一望というハイキングを兼ねた欲張りコースをご案内しました。お客様から新コースの登場に期待の声をいただきながらも、内心は天気予報にドキドキの出発となりました。

お客様とお庭のオーナーとの対話を大切にし、お庭への想いを感じていただけるよう心がけました。見過ごしてしまいがちな物言わぬ季節の木々や、草花たちの興味深い性質などもお伝えしました。森の中ではアオバトの音がこだまして、草木ばかりでなく、鳥たちまでも紹介出来てラッキーでした。大磯丘陵は花から青葉の季節へとダイナミックに移っていきます。終わってみればほとんど雨に遭わず、心配していた離脱者もなく、美しい景色もご覧いただき、ガイドをした私も幸せでした。(野々山 直子)



### ——照ヶ崎海岸 海開きの行事——

7月9日(日)



大磯海水浴場の海開きの式典が行われました。午前11時に照ヶ崎海岸「松本順謝恩碑」前での黙祷の後、北浜海岸に移動し、海水浴場の安全を祈願して神職による儀式が行われ、池田大磯町長をはじめ、関係する町内各組織の責任者が列席。松本順先生の玄孫(やしやご)の松本文彦様もご来賓として列席されました。当ガイド協会からは杉本会長が代表して玉串奉奠を行いました。式典終了後には、迫力ある神輿渡御(みこしとぎよ)が行われ、神輿は海の中へと進みました。

海水浴場は、明治18年、初代陸軍軍医総監の松本順により開設され別荘地・大磯の発展につながる契機となりました。今年も町内外から多くの方に安全で楽しい海水浴を楽しんでもらいたいと思います。(橋本 久)



——WTO(Welcome to Oiso) 交換留学生を迎えて——

7月8日(日) お客様7名 ガイド5名

3年ぶりの交換留学生受入れで、今年は高校生1名、大学生1名に加えて、デイトン市の「Dayton姉妹都市交流協会」の委員の方々を含め、総勢7名のお客様をお迎えしました。旧吉田邸の庭園から邸内をご案内後、城山公園展望台でのランチを挟んで城山庵書院での抹茶体験をするコース。16歳と19歳という若い二人の留学生は吉田茂を知る由もありませんが、戦後占領下の日本を講和条約締結まで率いた首相の足跡をとて熱心に聞いてくれ、西欧の家屋や庭園のきらびやかさと異なる、日本庭園や日本建築に“Beautiful!”



その後の、コンビニでのランチ購入は和気あいあい、みたらし団子から納豆巻き(!)まで抱えて上った展望台からの相模湾の眺望に歓声。木陰の中を下った城山庵では、簡素ながら開放的な和室のたたずまいに、“気持ち良くて素敵”と嘆息。畳に座ってのお抹茶体験で、日本の“Omotenashi”の心を楽しんで頂けたようです。大磯の良さだけでなく、日本の文化にも興味を持ってもらえた気持ちの良いツアーとなりました。(小石川 幸次)

——新人ガイド紹介 デビューしました!!——



☆2022年度入会の新入会員14名は、1年間の研修を修了して4月よりガイドデビューしまし

早速、旧吉田邸常駐ガイドやバスツアーのガイドをスタートしています。どうぞよろしくお願い致します。

【初めての依頼ガイド】

先日友人同士6名のお客様に旧吉田邸・庭園のご案内をしました。常駐ガイドを体験する前でしたので何度も庭園に足を運び、家でも一人リハーサルを繰り返しました。ところが、練習通り最初からきちんと話をしているとお客様の反応が良くありません。質問を投げかけたり、他愛もない会話をする事で次第に和んでいくのが感じられました。研修で習った通り「一方的に話すのではなくお客様と対話する」ということを改めて実感した次第です。大先輩が知識面のサポートをしてくださる安心感もあり、最後に「新人ガイド、合格だね!」とやっていただいたことは一生忘れません。お客様を心からお迎えする姿勢を忘れず精進して参りたいと思います。(高野 幸代)

【団体バスのお客様を案内】

5月23日、今日はバスツアーのお客様を初めてお迎えする旧吉田邸ガイドデビューの日です。岡山方面からの24名のお客様の内、私は3組のご夫婦をご案内しました。今日は大磯のあと鎌倉を巡って夕刻の飛行機で広島空港へお帰りになる予定です。6名ともとても気さくなご夫妻で、庭園、邸内のガイドが進むにつれて会話が弾み、80分のガイドが終る頃には大変和やかな雰囲気になりました。駐車場へ向かう階段の上で他の観光スポットのご紹介と今回のお礼を申し上げたのですが、お客様から「また大磯に来てみたい。」と仰っていただき、「お待ちしております。」と頭を下げながら鎌倉へ向かう観光バスをお見送りしました。ガイドになって良かったと思いました。

(今宮 督)

—— 今後の企画ガイド他予定 ——

No.	月日	企画ガイド(略称)	No.	月日	企画ガイド(略称)
1	8/19(土)	会員研修「朝鮮の歴史」	5	10/1(日)	共催:吉田茂のガーデンパーティー
2	9/9(土)	研修旅行「旧古河庭園他」	6	10/7(土)	大地の誕生の秘密・国府
3	9/16(土)	共催:旧安田邸と駅周辺散策	7	11/11(土)	明治27年の古地図散策
4	9/23(土)	松本順の生涯と大磯での生活	8	11/25(土)	共催:城山公園アート散歩

高麗山は大磯駅からのアクセスもよく、手軽に登ることができて風光明媚なことから人気の低山である。また、自然も豊かでとくに生育する植物の種類は多い。今回は8月から9月にかけて花を咲かせる多くの植物の中から特に注目したいものを3つ紹介する。

8月になると、ケヤキの広場にはキツネノカミソリ(狐の剃刀/ヒガンバナ科)の花が咲き、オレンジ色の群落が現れる。葉の形が剃刀に似て、山の中の狐が居そうな場所に生えることからの命名。地下にはヒガンバナとよく似た直径3~4cmの鱗茎(球根)がある。早春から初夏にかけて地際から長さ30~40cm、幅 0.8~1cmの葉をたくさん茂らせ、夏になると葉が黄変して枯れる。葉が枯れたあと、花茎が伸びて高さ30~50cmになり、オレンジ色の花を3~5個つける。葉の形や花と葉を別々に出すところ、有毒植物である点ではヒガンバナと共通するが、花の形や葉と花を出す時期は異なる。



キツネノカミソリ

次に紹介するのはタマアジサイ(玉紫陽花/アジサイ科)である。山地の沢沿いや、やや湿った林縁に自生し、高麗山では北側の斜面でよく見かける。蕾が球形であることからの命名。開花直後は、くす玉が割れて中から花が飛び出してきたような姿をしている。ヤマアジサイやガクアジサイのように1株の花が一斉に開花するのではなく、大きくなった蕾から順番に開花するので、1つの株でも長期間花を楽しむことができる。かつては、この葉を葉煙草の代用として利用しており、庭に植えて鑑賞するものとは考えられていなかったそうだ。日本人の嗜好の変化と共に、庭に使う低木としても受け入れられるようになった。



タマアジサイ

最後に紹介するのは薄暗い場所に生える少々個性的な植物、ギンリョウソウモドキ(銀竜草模/ツツジ科)である。同じツツジ科のギンリョウソウに似た花をつけることからの命名で、ギンリョウソウの実は多肉質で水分が多いのに対して、ギンリョウソウモドキは乾いた実で種子が成熟すると開くという違いがある。ギンリョウソウは鱗片葉がついた茎を胴体に、うつむき加減の花を頭に見立て、全体が白色である事から銀の竜に例えたことからの命名で、こちらもまさに銀の龍のよう。全身が白いのは葉緑体を持たないため、光合成ができないことから地中の菌類から栄養を得て生きている。新鮮なときは全体が白色だが、乾くと黒色になる。この個性派植物は高麗山でも数が少なく出現する場所も年によって変わるが、巡り逢えたらじっくり観察してほしい。



ギンリョウソウモドキ

## 【編集後記】

相模国府祭が4年ぶりに、大磯海水浴場開きも通常規模で開催され日常が戻ってきました。大磯を訪れるお客様も増加してきており、新人ガイドも旧吉田邸やバスツアーのガイドに積極的に参加してくれていて頼もしい限りです。オープンガーデンのお庭から旧吉田邸のバラ、牧野富太郎も頻りに訪れた高麗山の多様な植物相まで、季節毎にいろいろな楽しみかたができるまちが大磯です。またご一緒しませんか。(小泉 秀彦)